

〈セミナーのご案内〉

● 今回配布先を限定しておりますので、関係各位へのご回覧につき、ご高配をお願いいたします。

回				
覧				

高等教育活性化シリーズ 252 (通算 577 回)

2013 年 12 月 13 日 (金)

国・公・私 の 共通調査データによる――

“大学IRコンソーシアム”の衝撃～学士課程教育の質進化

～ 大学教学連携のプラットフォーム / IR コミュニティの創出と今後 ～

- ※ 教学 IR とは / 8 大学連携プロジェクト / 中間支援組織としての大学 IR コンソーシアム
- ※ [甲南大] “職員”が関わる IR / 教育に寄り添う IR / データに何を語らせるのか / 連携の果実
- ※ [北海道大] 学生像の把握 / 大学間比較から自大学の長所を探せ! / P D C A サイクルの実現
- ※ [九州産業大] 全学共通英語教育 / 除籍・退学減少プロジェクト / 学長プロジェクト / ネットワーク型学修支援

● 講師陣 ●

- 山田 礼子 氏 / 同志社大学 教育支援機構 副機構長 学習支援・教育開発センター所長
社会学部 教授 大学 IR コンソーシアム 代表会員代表
- 深堀 太博 氏 / 甲南大学 大学企画室
- 徳井美智代 氏 / 北海道大学 高等教育推進機構 特任准教授
- 秋山 優 氏 / 九州産業大学 教学部長 経済学部教授

2013 年 12 月 13 日 (金) 剛堂会館ビル 会議室 (東京・麹町)



地域科学研究会
高等教育情報センター

日 時 : 2013 年 12 月 13 日 (金) 13:00～18:00
会 場 : 剛堂会館ビル (明治薬科大学) 会議室 (東京・麹町)
千代田区紀尾井町 3-27 03-3234-7362

アクセス : 東京メトロ有楽町線「麹町駅」1 番出口より
徒歩 4 分、または JR 中央・総武線「四ツ谷駅」
麹町口より徒歩 10 分

※受講証及び会場の地図の送付をもって参加受付
となりますので、必ずご確認ください。

参加費 : A. ご一名 (資料代・懇親会費・税込) 40,000 円
B. メディア参加 (資料・音声 CD 送付)
37,000 円 (送料、税込)

※メディア参加とは、開催当日に会場に来られない方の
参加形式です。

※開催後に当日配布資料及び音声 CD をご送付します。
※なお、当日参加とともに、音声 CD をご希望の方には、
特別割引いたします。

※参加費の払い戻しは致しません。申込者の都合が悪い
ときには代理の方がご出席ください。

申込方法 : 参加申込書に所要事項を記入のうえ、
FAX または E-mail にてご送付ください。

支払方法 : 銀行振込・郵便振替・当日払いがあります。

みずほ銀行麹町支店 普通 1159880

三菱東京 UFJ 銀行神田支店 普通 5829767

三井住友銀行麹町支店 普通 7411658

郵便振替 00110-8-81660

口座名 < (株) 地域科学研究会 >

※ご請求なき場合は振込受領書を領収書に
代えさせていただきます。

申 込 先 : 地域科学研究会・高等教育情報センター

東京都千代田区一番町 6-4 ライオンズ第 2-106

Tel: 03 (3234) 1231 Fax: 03 (3234) 4993 〒102-0082

E-mail : kkj @ chiikikagaku-k.co.jp

URL : http://www.chiikikagaku-k.co.jp/kkj/

☆同人組織としての「高等教育計画経営研究所」を創設、KKJ の URL にてご覧ください。

キトリ線 (※参加申込みの折は必ずお送りください)

研修会参加申込書

高等教育活性化シリーズ 252

“大学 IR コンソーシアム”の衝撃～学士課程教育の質進化

2013 年 月 日

(□に✓印を) □当日参加 □メディア参加
支払方法 □郵便振替 □当日払い □銀行振込
必要書類 □請求書 □見積書

勤務先 _____

所在地 〒 _____

連絡部課・担当者名 _____

メールアドレス _____

TEL _____ FAX _____

参加者氏名	所属部課役職名	メールアドレス

※この個人情報は、本セミナーの一連の業務及び今後のご案内に使用させていただきます。

時間	講義項目
13:00 } 14:30	<p>□ [基調報告] 大学IRコンソーシアムの意義と役割 同志社大学 山田 礼子</p> <p>1. 日本の高等教育政策の動向 (1) 中教審答申の振り返り (2) 教育の質保証の重要性 (3) 認証評価第二サイクルと教育の質保証の意味 (4) 世界の高等教育政策との共通点</p> <p>2. 教学IRとは何か (1) IRの基本原則 (2) 日本でのIRの類型 (3) 教学IRとは何か (4) 教学IRを通じての教育改善</p> <p>3. 大学IRコンソーシアムの活動 (1) 大学IRコンソーシアム設立過程 (2) 8大学連携プロジェクトと大学IRコンソーシアム (3) 大学IRコンソーシアムでできること</p> <p>4. 大学間連携による大学IRコンソーシアムの可能性と課題 (1) 中間支援組織としての大学IRコンソーシアム (2) 大学IRコンソーシアムの可能性 (3) おわりに：大学IRコンソーシアムの課題 〈質疑応答〉</p>
14:40 } 15:20	<p>A. [甲南大] 教育に寄り添うIRとは ～ 教員や研究者ではなく“職員”が関わるIR～ 甲南大学 深堀 太博</p> <p>1. “連携”により得られたIR活動 (1) 業務推進担当は大学企画室(事務部局) (2) 連携事業のメリット (3) 学生調査の継続実施</p> <p>2. データに何を語らせるのか (1) 学内のデータを結び付ける仕組みがない中での取組み (2) データの所在を最も良く知るのは職 (3) 分析家(アナリスト)は必要か ～分析結果が必要なのか、統合されたデータの集計が必要なのか</p> <p>3. いかに教育に結びつけていくのか (1) 誰の・何のためのIR活動か (2) 職員の“経験”を最大限活かす ～仮説となり得る情報は、先生や学生対応部門の職員から (3) データはあくまで診断結果 ～結果をとにも受け止め、次に活かすためのコンサルタントも必要 〈質疑応答〉</p>
15:30 } 16:10	<p>B. [北海道大] 大学間比較、経時変化のインパクト 北海道大学 徳井美智代</p> <p>1. 学生像を把握するために (1) 各種アンケート調査の現状 (2) 感覚からデータへ</p> <p>2. 比較から見えてくること「自大学の長所を探せ！」～学生調査、卒業生調査より (1) 大学間グループと自大学 (2) 経時的データが示すもの (3) 学部間、男女間</p> <p>3. 教育改善の道標として～自大学の課題はどこにあるのか？ (1) IRデータ活用の可能性と展望 (2) PDCAサイクルの実現に向けて 〈質疑応答〉</p>
16:10 } 16:50	<p>C. [九州産業大] 九産大型IRの取組について ～ 全学共通英語教育を中心として～ 九州産業大学 秋山 優</p> <p>1. 全学共通英語教育から見たIR (1) 全学共通英語教育とは (2) 10年間に亘る膨大なデータから見えてきたIR (3) 九産大型IRの活用</p> <p>2. 除籍・退学減少プロジェクトから見えてきたIR (1) 3年前に開始した学長プロジェクト (2) ネットワーク型学修支援 (3) プロジェクトから見えたIR</p> <p>3. 今後の九産大型IRの展望 (1) 英語教育と学長プロジェクトを通して (2) 今後の九産大型IR 〈質疑応答〉</p>
17:00 } 18:00	<p>[交流・懇親会] 大学IRコンソーシアムの明日を拓く 山田・深堀・徳井・宮本・秋山の講師各位を囲んで</p>